

地域医療

政策医療と急性期医療の充実

総合病院については、がん診療等の高度専門医療、小児周産期、離島医療などの政策医療を担うとともに、「救命救急センター」も含めた救急体制の整備を行い、急性期医療の充実を図ります。

石木ダム

水問題は喫緊の最重要課題

石木ダム建設事業については、現在、国土交通省が進めている全国のダムの検証の中で、長崎県を主体に石木ダムの検討作業が行われており、本市も国や県の指示に従い、検討作業に協力しているところです。渇水はいつ起こるか分かりませんし、本市の水問題は喫緊の最重要課題ですので、この検討作業と並行して、石木ダム建設にご同意をいただけない地権者の方々との対話のお願いを続けていきたいと考えています。



基地政策

港のすみ分けの実現を

基地政策の最重要課題である「前畑弾薬庫の移転・返還」については、去る1月17日、日米合同委員会で合意がなされました。また次期防衛計画の大綱等に、海上自衛隊潜水艦の増隻が明記されたことを受け、崎辺地区の海上自衛隊による利活用を具現化するものとして、潜水隊群の誘致を要望しました。引き続き「新返還6項目」を基調とした港のすみ分けの実現に取り組んでいきます。



「海きらら」入館者100万人達成セレモニー (2月26日)

観光振興

魅力向上と観光客誘致

観光客の誘致促進

ハウステンボスや佐世保観光コンベンション協会と連携を図り、国内外からの観光客誘致を推進します。特に、中国など東アジアからの観光客の誘致については、ハウステンボスが計画されている「上海航路」や県の観光戦略等を視野に入れ、積極的に取り組んでいきます。

まちなか観光

佐世保ならではの「港まち」の特性を生かしたまち歩きツアーを企画するとともに、長崎県や近隣市町等と連携した「食」をテーマとする観光客誘致と周遊型観光(複数の観光地を巡る旅行形態)の促進を図ります。

観光基盤の整備

九十九島水族館「海きらら」と「九十九島ビジターセンター」を西海国立公園九十九島の魅力と情報を発信する拠点として効果的な運用を図るとともに、西海パールシーリゾート内のウッドデッキの改修などを行い、本市観光の魅力向上に努めていきます。

開園50周年を迎える動植物園

「海きらら」との連携をさらに強化し、相乗効果による集客を図るとともに、園内各施設のリニューアルを進めます。



市政広報テレビの収録で、4月にリニューアルする動植物園をPRする朝長市長

平成23年度 施政方針

地元経済の活性化と雇用拡大の推進を

2月25日から3月定例市議会が開かれ、朝長市長が平成23年度の施政方針を説明しました。その内容を抜粋、要約してお知らせします。

市長就任以降、市民や関係者の皆さまには、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。私はこれまで、累次にわたる経済雇用対策をはじめ、ハウステンボス支援や企業立地の促進、観光・物産の振興など、本市の雇用創出と経済の活性化に力を尽くしてきました。本市には、そうした経済雇用対策と合わせ、石木ダム建設等による水源確保、前畑弾薬庫の移転・返還をはじめとする基地問題、旧ポートルネッサンス21計画地区の利活用、全国和牛能力共進会や長崎がんばらんば国体の準備、救命救急センターの設置を含む地域医療再生への取り組み、合併地域の振興と新市の一体化、交通不便地区対策、地域コミュニティの再構築、東アジアへ向けた九州サブゲートウェイ(第2の玄関口)構想の推進など、今後解決していかなければならない中長期的な重要課題が山積しており、残された任期もこうした課題に全力で取り組んでいきたいと思っております。

経営方針
「市民とともに歩み、変革し続ける行政」の実現に向け、私も行政は、市民とともにまちづくりを考え、実行して行くパートナーとして「市民第一主義」の姿勢を堅持しながら、市民や時代のニーズに柔軟に対応していくため、経営の視点に立ってまちづくりを行っていくこととしています。

まちづくりの重点課題
昨年度に引き続き、企業立地と地域の人材育成を柱とした「地元経済の活性化」「雇用拡大の推進」を最重点の課題として掲げており、各種支援策の効果的な展開を図っていきます。

当初予算の編成
本市経済は明るい兆しが見られるものの、依然として厳しい経済雇用情勢が続いています。このことから、市民の皆さんの生活や地域経済を下支えするとともに、地域に元気を取り戻すため、財政の持続性を考えながら、市民の皆さんのニーズにきめ細かく対応できる予算を編成しました。

雇用創出 新規企業の立地と市内企業の事業拡大に努めます

市営工業団地の整備

昨年12月、長崎県の市町営大規模工業団地支援事業の候補地として、本市小佐々地域が選定されましたので、平成25年度末の完成を目指し、事業を推進します。また市内企業の増・移設用地として整備した「吉井町御橋工業団地」の早い時期での分譲完了を目指し、企業誘致活動を展開してまいります。

企業立地の促進

新規企業の立地と市内企業の事業拡大に努め、本市独自の企業立地奨励制度による支援措置などを活用しながら、引き続き積極的な取り組みを行います。なお昨年12月、吉岡町に立地が決定した、めんたいこ等の製造を行う株式会社インヴィンシブル佐世保工場は本年5月に操業開始予定であり、3年後には約70人の地元雇用が計画されています。



県の大規模工業団地支援事業に小佐々地域が選定されたことを記者発表する市長 (昨年12月22日)